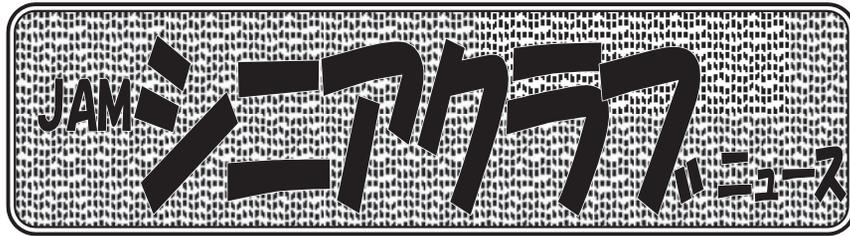


地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を



第148号

発行日 2019年12月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

## 2020年度「第1回幹事会」 活動方針の具体化など協議 組織対策委員会と年金学習会も開催

12月6日、シニアクラブは2020年度第1回幹事会を開催した。幹事会の前段には現役が加わり新たに設置した「組織対策委員会」を開催、停滞している組織拡大を現退が力を合わせてすすめる具体的な取り組みについて意見交換した。また、今年のもう一方の活動テーマである「年金問題」について連合から伊藤彰久生活福祉局長を招いて講演を受け、質疑では連合の取り組みについて幹事から厳しい意見と要望が出された。

幹事会は豊泉副会長 冒頭、JAM安河内 会長は挨拶で来春闘が座長で議事を進行。について連合とJC



会の方針大綱を確認した。足元の現場は厳しいが歯を食いしばって昨年を超えるような格差是正に向けて闘おう！

とハッパをかけている」と力強く語った。また、国会で共同会派を組む野党党首間で再編の動きが活発化したことに「年明けの解散は下火となったが野党の大きな一つの固まりを目指していかねければならない」と期待を述べた。報告事項では、12月5日現在、27地方シニアで定期総会を開催。シニア共済加入者が期首の7月時点より微増

となったが10月・11月と2カ月連続で減少し頭打ち傾向が明確になってきた。また地方における政策制度学習会が活発化して、これまで6地方に補助金を交付し補助金の予算進捗が進んでいること、核兵器廃絶署名と台風災害救援カンパ活動の進捗報告が確認された。

シニア総会も終わり、今年もあとわずかとなった。毎年のことだが年が明ける総会で決めた方針を具現化する時期となるが、実績が上がらないシニア会員拡大について考えてみた。

山梨シニアの事務局長は3年目。会員数はスタート時(2005年)で約20名弱。以降はこの状態が続き現在は19名。しかもスタート時メンバーと現メンバーが殆ど同じで年齢は70歳後半という状況にある。

シニアの側と、我々から入会要請を受け入らないだろうとなる。一つ目は人間関係。現役役員は多分先輩の役員経験者に入会要請すると思うが、現役役員にしてみればやっとな先輩が引退して自分達の時代になったのにシニアでまた

者本人も今更(65歳になって)シニア加入もないだろうとなる。一つ目は人間関係。現役役員は多分先輩の役員経験者に入会要請すると思うが、現役役員にしてみればやっとな先輩が引退して自分達の時代になったのにシニアでまた

## シニア会員拡大目標 20%の実現に向かって

山梨シニア事務局長 川上 章

シニアの会員拡大などは、現役時代の組織拡大に比べれば組織との関係はあるし、先輩・後輩の関係もあるの

で比較的スムーズに出来るの

一つ目は要請時期。現在は定年が60歳でもその後は大半が再雇用等で65歳まで勤務するが60歳以降は組合員資格がない。この間に現役役員も交代し対象者との関係も希薄になるし、また対象

立場を強調する。などがあると思う。ただ会員拡大停滞の原因は自分たちの努力不足だとし、また年度初めから現役役員の会議や単組訪問を行い会員拡大目標の20%に向かって努力していきたい。

### 主張



ではないかと思っていたが簡単ではない。それは我々シ

者との関係も希薄になるし、また対象

立場を強調する。などがあると思う。ただ会員拡大停滞の原因は自分たちの努力不足だとし、また年度初めから現役役員の会議や単組訪問を行い会員拡大目標の20%に向かって努力していきたい。

「年金学習会」は企画会議を置き、準備・資料収集を行い会員への啓蒙、地方学習会の指針及び資料提供をすることとした。

### 九州山口

第17回定期総会開く  
シニアへの理解が深まる現退会議  
新たな組織加入の仲間を大歓迎

事務局長 森峰 茂樹

JAM九州・山口シニアクラブは10月24日1泊2日の日程で熊本市植木温泉のホテルで第17回総会を開き、九州・山口の6県から32名が参加した。

初日は恒例のグランドゴルフ大会で4ゲームに熱戦を繰り広げた。優勝は本総会を今期に加入した不二サッシュユニオンシニアクラブの開さんで79打のハイスコアで栄冠に輝いた。夜の懇親会も大いに盛り上がり、各県対抗歌合戦さながらに熱唱が相次ぎ歓声が弾んだ。

翌日は年金学習会と総会を行った。年金学習会は九州労金熊本支

#### 核兵器廃絶署名活動への協力と提出のお願い

JAMシニアクラブは国連へ核兵器のない明るい未来と核兵器廃絶・平和の声を届けるため、日本退職者連合とともに署名活動に取り組んでいます。

12月5日、現在まだ数地方シニアの提出にとどまっています。署名活動への協力と早急な回収と提出をお願い致します。

### 葉 盛りが上がった全員挨拶の懇親会

千 通信員 蝦名 秀信

て理解を深めた。総会ではJAMシニアクラブ大野事務局長と九州・山口の横田執行員長から挨拶を受けた。大野事務局長は社会保障を巡る将来不安にふれ政策制度の取組み強化を訴えた。横田委員長は可能な限りシニアの幹事会に出席し、シニアの活動と意向を共有したいと抱負を語ったが、その言葉通り現退交流が一段と進んだ一年であった。現退会議でシニアへの理解と関心が深まり、7県地協がある中で3県地協でOBとの交流会を実施し、残る県・地協での開催に向けた検討が始まり組織強化に向けた活動方針を確認した。総会は核兵器廃絶1千万署名で締めた。



JAM千葉シニアクラブ第19回定期総会

JAM千葉シニアクラブの定期総会(第19回)が10月11日にホテル「ポートプラザちば」で開催された。この日は超大型とされる台風19号が関東地方に接近し上陸が予想される前日で嵐の前の静けさでした。会員(台風対策のため参加を見合わせる)との連絡3件あり)来賓含め、総勢47名が参加し、講演・総会・懇親会と3部構成で行った。講演は「医療・介護

### 東京

第19回総会に会員43名出席  
介護のお世話になる時の学習

事務局長 小川 秀樹



JAM東京シニアクラブは10月8日(火)、JAM金属労働会館3階会議室で恒例の学習講演会と第19回定期総会を開催した。

まずは午前10時30分から聴講者33名での講演会。お題は「もしも介護保険のお世話になる時は?」、介護保険制度が始まって19年経ちましたが、その間、幾多の改正があり分かりにくいとの声に

会となった。またその間に、台風15号(9/9、朝5時千葉上陸)による災害に対してカーパ活動も実施した。最後になりましたが、定期総会に出席された来賓の皆様、ご祝辞・激励ありがとうございました。来賓の皆様を紹介いたします(敬称略)。

JAM参与・田中久弥、JAMシニアクラブ会長・大山勝也、JAM東京千葉書記長・橋本光正、JAM東京シニアクラブ会長・長岡隆、JAM東京千葉房総地協副議長・池田広明、千葉県退職者連合会会長・石田勉、こくみん共済千葉推奨本部次長・木崎節仁。



JAM東京シニアクラブ第19回定期総会

るべく企画。講師は世田谷区議で介護支援専門員である中塚さちよ氏。実例も含めた具体的な講演は大変好評で数名の方から質問がありました。

午後からはJAMシニア大山会長、JAM東京千葉森委員長、千葉シニア齋藤副会長、東京高退連高木副会長、田の上東京都議、来賓を含め総勢43名の出席の下、第19回定期総会を開催し活動・決算報告、新年度活動計画と予算、長寿表彰(1名・米寿)と2年間の役員改選が審議承認された。

役員改選は1名の交代で他は留任の計11名体制。新年度も現役の皆さんのご協力を得ながら会員拡大とともに、シニア会員の生き甲斐や交流促進を目指していきます。

総会終了後のカンパ金2万3336円を「台風15号による千葉災害見舞カンパ」としてJAM東京千葉に送付。総会後の懇親会は来賓も交えて話題が飛び交い盛り上がった。